

設立趣旨書

平成 29 年 4 月 2 日

特定非営利活動法人ドルチェ邦楽合奏団

1 設立の趣旨

日本の伝統文化である邦楽界の現状は、全体的に捉えると必ずしも発展の道を歩んでいるとは言いがたい。この傾向は邦楽の難しさを認識しながら、難解な音楽を演奏し続け、その結果マンネリが邦楽界全体に蔓延し、マイナスのスパイラルの渦の中にはまり込み、現状を迎えているのでは無いかと思われる。又もう一点の大きな理由は、伝統的な邦楽では旋律を演奏するに当たり演奏家の技量に委ねる度合いが特に大きく、聴衆を感動させるには優れた演奏家が全国的に大勢必要と思われるが、全体的にその絶対数が少ないことも大きな要因として考えられる。さらに、演奏会の在り方にしても、今迄学んできたことを発表する場として自分が楽しければ良いとの認識で、発表会の枠を出ない演奏会であったり、コンクールに出るような気持ちで演奏会に臨むなど、観客の感動を意識することは二の次になっている演奏会をよく見かける。このような問題点が有ると認識していても、一向に改善の兆しが見えないのは、日本人の気質として守旧派の多い事が足かせになっているのではないかとと思われる。

しかしながらこのような問題を克服し、邦楽の活性化を夢見るなら、ドルチェ邦楽合奏団が進めている伝統音楽の作品に加え、更なる「作品の素晴らしさ」を感じさせる魅力的な作品の創造を積極的に進める事と「演奏の素晴らしさ」を感じさせるような演奏会の開催を出発点に、このような演奏会を全国的な規模で、数多く重ねることが、邦楽活性化の最善の方法だと考えている。

この事を踏まえながら「邦楽って楽しいの?」「もちろん!」をモットーに掲げ、年4回開催している定期演奏会での成果でリピーターの観客を増やし、5年毎の周年記念演奏会で13'年に開催した15周年演奏会では上野の東京文化会館が超満員になるまでに育ってきた。8'年に開催した10周年の折に新作初演した「竹取ものがたり」は、エポックメイキングな作品であると高い評価を唱える観客も居り、大変感動したと大きな評価を得ている。又子供の育成にも力を注いでおり、毎回の演奏会に子供参加コーナーを設け、大人と子供が共演出来るような曲を毎回作り、子供達の共感も得て、毎回参加する子供達の成長の早さに驚かされていることも度々である。すなわち、我々の実績は座付き作曲家を抱え、演奏家との共同作業で作りに上げている作品の評価と、綿密なアンサンブルの修練で鍛えられた演奏力が相まって作り上げた合奏団で、活性化を実現し邦楽の普及と発展に大きく寄与している団体だと思っている。

そこで、この法人は前記のような実績を踏まえ、子供対象も含め素晴らしいレガシー（新

しい作品)を演奏する人たちへ折山残しながら、又その作品を発表する事で観客へ感動を運ぶ事を念頭にいれ、その事に喜びを見付けながら更なる団体としての発展を目指し、演奏会、学校公演などの子供の育成事業、地域の文化活動、海外公演など、様々な事業を行い、邦楽の継承・発展・活性化に寄与することを目的に活動します。

今回、法人化を目指しているのは、今迄任意団体としてここまでの実績を残し地域に定着させ、狭いエリアで大きな成果を上げてきたが、之を更に地域を広げ、全国的な規模で展開する事で邦楽界を活性化させる事が大きな目的で、その実現のためにはより多くの地域の方々と連携を深めていくことが肝心で、その為には社会的に認められた公的な組織にしていくことが最善の方法と考えました。また、この活動は営利目的ではなく、非営利で純粋な普及活動と認知されることで、より多くの賛同者の参画して頂く為にも効果的と考え、法人化を目指しているところです。

法人化が実現すれば、組織的にもより充実した形で、団体としての存在も確立させることで、団員の士気も上がり、意気込みも自然に増してくることと、団体としての取り組みもより社会貢献に軸足を置くことで、広い範囲での活動を通して、より早く邦楽の活性化を実現させる事に大きく貢献出来ると思っています。

2.申請に至るまでの経緯

- 1997年4月 任意団体「千葉邦楽合奏団」設立
- 2003年2月 同 「東京邦楽合奏団」設立
- 2008年6月 同 「神奈川邦楽合奏団」設立
- 2009年1月 同 上記3合奏団をドルチェ邦楽合奏団グループに改組
- 2013年4月 同 ドルチェ邦楽合奏団グループ「埼玉邦楽合奏団」設立
- 2015年4月 上記4合奏団を合併・統合し、「ドルチェ邦楽合奏団」とし、各合奏団を支部制に改組
- 2017年2月 NPO 法人設立発起人会開催
- 2017年4月 NPO 法人設立総会開催